

◇韓国に置いて行かれた日本の英語教育◇

感謝祭休暇を頂いてありがとうございます。前半に Korea (韓国) プサンに行ってきました。コロナが始まってから初めての渡航です。

ファンも多く魅力満載の韓国ですが、行ってみて感じたことは、①みんな親切 ②困った人をすぐに助けてくれる ③日本語が上手 ④英語も上手 ⑤食べものは辛い ⑥貧富の差はあれどみな元気

以上は私個人の感想に過ぎませんが、どこに行っても気になるのはその国の英語力。モアをスタートしたころ、韓国は『英語村』を作ったり、英語圏への学生の留学を勧めたりと、どんどん施策を打ち出してきました。『日本は完全に取り残された。』とは聞いていたのですが、実際に行ってみて、その通りだと思いました。

観光業務の人たちを除いた一般の人たちが、いざという時に英語での案内や説明が堂々とできます。ハングルが出来ない私はもちろん英語しかないので、たくさんの人と話すことが出来ました。『英語分らない〜』と逃げる人は一人もいませんでした。正直に言うと英語が出来そうな人に話しかけるという私の選別はあったものの、たいていの場合、英語で親切に助けてくれて、また雑談や日本に来た時のエピソードも話してくれました。

おまけに韓国の方は戦時中に日本に労働で来ていた方も多く、80代の方は日本語が上手で、話したがっているのが分かりました。若者も日本大好きな人が多いので、積極的に日本語で話してきます。

3 日間の韓国を体験して、私の頭の中はグルグルぐるぐる回っています。英語に触れる時間をもっともっと増やさないといけないですね。でもみな忙しいですね。でも何か良い策はあるはず。この頭をガツンと殴られたようなショックを感じているうちに、いろいろなイメージを巡らせています。実践で使った言葉は定着が早く確実です。リアルな場づくりなどもできそうです。日本だって負けないぞ〜。

Naomi 2023.11.16



韓国の成功事例は、これからの日本の英語教育のヒントになる！

Conclusion

お隣の国・韓国での英語教育が、まさかこれほど進んでいたなんて…。驚きと同時に、日本にとっては希望とも言えるかもしれません。韓国語と日本語は、文法的に近いものがあり、英語とは言語構造が大きく異なります。そして、2020年からの新学習指導要領において日本の小学校での英語教育が目指している、「コミュニケーションツールとしての英語力強化」にも通ずるところがたくさんあります。実際、日本の教育関係者の中にも、韓国での成功例や授業法を参考にしていきたいという意見が見られます。

英語が身につくと、その先にはどんな世界が広がっているのか。改めて考えるきっかけになる事例なのではないかなと思います。

また、韓国は1994年に世界貿易機構 (WTO) へ参加したことで、韓国社会全体での国際化の流れが加速していたこともあり、アジア通貨危機でのビジネスの変容も踏まえて、国としてのグローバル化政策が大々的に進められていきました。1997年の小学校の英語教育改革も、その1つです。こうした背景があるからこそ、世界で本当に使える(戦える)英語力を育成することを本気で目指し、試験のための暗記ではなく、「コミュニケーション」を重視した英語への転換が図られたということですね。

その結果として、20年を経た今、韓国の英語力は実質アジアNo.1にまでなりました。英語ができるようになると、仕事も進学も、もはや韓国国内にこだわる必要はなくなり、海外に出て活躍する人が増加。アメリカの超一流大学であるハーバード大学では、2017年の国外からの国別在籍者数で、韓国は2位(約300人)に！(1位は中国で約900人、日本は約100人。)英語を身につけることでフィールドが広がる、将来の選択肢を世界規模にできる、ということの実例を見せてくれているように感じますね。

そもそも、どうして韓国では英語教育が盛んになったの？その効果は？

実は韓国が英語教育に力を入れ始めたのには、ある大きな理由がありました。1997年に起きたアジア通貨危機により、韓国経済が非常に深刻な打撃を受けたことが、ビジネスと教育に変革をもたらしたのです。

韓国の通貨・ウォンが急落して経営難に陥った韓国企業は、生き残りをかけて続々とグローバル化を推し進め、サムスン電子やLGエレクトロニクスなどの世界的大企業へと成長していきました。これにより、韓国企業の大半を占める財閥系企業に就職するためには、世界でビジネスができるだけの高い英語力が必須条件に。どんなに高学歴であっても、英語ができなければ一流企業へ就職できないだけでなく、多くの企業でも就職の可否に英語力が関係してくるようになっていきました。